

## 東海地域経済懇談会へ参加（2/22）

～種橋副会長が三重県連代表として報告～

東海商工会議所連合会、（一社）日本経済団体連合会、（一社）中部経済連合会の共催により、平成30年2月22日（木）「GDP600兆円経済に向けて邁進する年に」をテーマに、ホテルナゴヤキャッスルにて東海地域経済懇談会が開催され、種橋潤治副会長（四日市商工会議所会頭）、田中彩子副会長（鈴鹿商工会議所会頭）ほか専務理事が参加しました。

懇談会は「テーマ1 活力ある地域づくり」と「テーマ2 産業競争力の強化」について、それぞれ問題提起と意見交換が行われ、三重県連を代表して種橋副会長が「交流人口の拡大による地域経済活性化」について、以下の通り報告しました。



▲ 東海地域経済懇談会の様子

▲ 代表報告をする種橋副会長（中央）、  
右は田中副会長

『伊勢志摩サミット、お伊勢さん菓子博により三重の地名度は高まった。三重県は今年をスポーツイヤー元年と位置づけ、7月のインターハイから2021年の「三重とこわか国体」へスポーツツーリズムの流れをつくり、また、文化・歴史資源の活用による集客、四日市港に外国クルーズ船の来港、高速道路の開通等により、交流人口の拡大による地域経済の活性化に取り組みたい』と述べました。

経団連からは、『観光産業は地域活性化の要、消費喚起の切り札であるという観点から、交流人口拡大のメリットを地域経済が享受できる工夫には「稼ぐ力」の発揮と受入れ体制の整備が不可欠。お伊勢さん菓子博はまさに好事例。外国人観光客の受け入れに、空港や港湾のインフラ整備は急務であり、さらに観光戦略の立案・実行する推進体制の確立、人材育成にいかに取り組むかが鍵となる。交流人口の拡大に資する施策として来年度から始まる「キッズウイーク」にも注目していただきたい』等の発言がありました。